

「核兵器のない世界を～国際署名」 宣伝用スポットモデル
(09.8/6～ 広島県医労連・第1版)

ご通行中の市民のみなさん、私たちは、広島県内の医療・介護現場で働く看護師や介護職員、医療従事者の労働組合、広島県医労連です。人の命を守るために働く私たちは、いのちを脅かす戦争や核兵器を許せません。本日この場で、核兵器の廃絶をめざす「国際署名」へのご協力を呼びかけ、署名活動をおこなっています。どうか皆さんの「平和を願う声」「核兵器のない世界を願う声」を署名に託していただき、ご協力いただけますよう、お願いします。

【ヒロシマ・ナガサキをくり返さないために】

みなさん、64年前の8月6日午前8時15分に広島、三日後の8月9日午前11時2分に長崎へ、人類史上初めて原子爆弾が、アメリカによって投下されました。爆風、熱線、放射線が人々に襲いかかり、一瞬のうちに、二つの都市は壊滅させられました。

たった1発の原爆で、ヒロシマでは14万人以上の命が、ナガサキでは7万人以上の命が、奪われました。そのとき助かった人たちも、医療や救護にあたった人たちも、いまなお24万人以上もの人々が放射線による健康被害で苦しめられ、毎年多くの方々が亡くなっています。

21世紀のいまも、世界には2万6千発の核兵器が残され、数千発は、いつでも使える状態におかれています。「人類と核兵器は共存できない」その被爆者の痛みを満たした訴えにこたえ、私たち自身の未来を守るために、いま核兵器を廃絶させるために力をあわせましょう。

あなたの平和への願い、核兵器廃絶への願いを、いま世界で取り組まれているこの「国際署名」に、どうか託してください。

ご通行中の市民のみなさん、私たちは、広島県内の医療・介護現場で働く看護師や介護職員、医療従事者の労働組合、広島県医労連です。人の命を守るために働く私たちは、いのちを脅かす戦争や核兵器を許せません。本日この場で、核兵器の廃絶をめざす「国際署名」へのご協力を呼びかけ、署名活動をおこなっています。どうか皆さんの「平和を願う声」「核兵器のない世界を願う声」を署名に託していただき、ご協力いただけますよう、お願いします。

【核兵器廃絶条約の締結へ国際的共同行動を】

みなさん、いま、核兵器の廃絶を求める国際的な世論と、草の根の運動が政治を動かし、大きな変化が起きています。アメリカのオバマ大統領は、今年4月プラハでの演説で、「核兵器を使用したことのある唯一の核兵器保有国として、行動する道義的責任がある」と表明し、「核兵器のない平和で安全な世界」をめざす国際的な共同をよびかけました。世界中の圧倒的多数を占める国々の核廃絶を求める声、そしてイギリスやドイツなど核保有国の首脳陣や元軍人の核廃絶を支持する動きも急速に広がっています。

来年春にはニューヨークで、190の国々が参加し、核兵器の完全廃絶への道すじを検討課題に含む国際的な会合が開かれます。核不拡散条約（NPT）再検討会議と呼ばれるこの会議は、「大国が核保有の特権にしがみつくと限り、これに対抗して核兵器を持つとしようとする他国の動きを抑えることはできない」という、歴史的な事実によってウラ打ちされた教訓を生かすべき、たいへん重要な役割をもつ会議です。

このNPT再検討会議で、世界の国々の政府に、核兵器の完全廃絶に向けた約束をしっかりと守らせること、いまここでご協力をお願いしているのは、このためにいま世界中で取り組まれている「国際署名」です。私たちは、「日本では国民の1割、1,200万筆を集めて届けよう！」と声をかけあって取り組んでいます。いま、およそ国民の100人に一人、102万筆（09.7時点）を超えたところです。あなたの平和への願い、核兵器廃絶への願いを、この「国際署名」に、どうか託してください。

ご通行中の市民のみなさん、私たちは、広島県内の医療・介護現場で働く看護師や介護職員、医療従事者の労働組合、広島県医労連です。人の命を守るために働く私たちは、いのちを脅かす戦争や核兵器を許せません。本日この場で、核兵器の廃絶をめざす「国際署名」へのご協力を呼びかけ、署名活動をおこなっています。どうか皆さんの「平和を願う声」「核兵器のない世界を願う声」を署名に託していただき、ご協力いただけますよう、お願いします。

【問われる日本政府の態度、核拡散・「核の傘」の矛盾】

みなさん、「核兵器のない世界」の実現へ、国際的に大きな動きがすすんでいるこのときに、唯一の被爆国である日本の政府・与党がとっている態度は、むしろ“後ろ向き”であるようにさえ見受けられます。最近、元外務省の官僚などの発言が報じられ、わが国には「核兵器をつくらない、持たない、持ち込ませない」という非核三原則があるにも関わらず、50年近く以前から、アメリカ軍の核兵器持ち込みを黙認するという「秘密の約束」があったという疑惑が表面化しました。表では「オバマ大統領の核兵器廃絶に向けた発言を歓迎する」といいながら、一方で「核の傘」の維持を求めていると報じられています。

これまでの核兵器の歴史をみれば、「核の傘」のような「核抑止力」論の文字通りの“矛盾”は明らかです。たった数発の原爆からはじまった大国間の核武装競争戦争が、やがてイスラエルやインド、パキスタンへと核保有国の拡大、そして最近の北朝鮮のように核開発競争ともいえる拡散の危険を加速してきました。いまま被害の耐えないヒロシマやナガサキの悲劇を、再び未来に繰り返させないためには、核兵器を完全廃絶するしか現実的手段はありません。

日本の政府には、いまこそ憲法9条を堅持し、非核三原則を確実に実行する国として、平和と核兵器廃絶における国際的なリーダーシップを発揮することが求められています。政府の姿勢をただすのは、私たち一人ひとりの権利であると同時に、責任で

もあります。あなたの平和への願い、核兵器廃絶への願いを、この「国際署名」に、どうか託してください。

ご通行中の市民のみなさん、私たちは、広島県内の医療・介護現場で働く看護師や介護職員、医療従事者の労働組合、広島県医労連です。人の命を守るために働く私たちは、いのちを脅かす戦争や核兵器を許せません。本日この場で、核兵器の廃絶をめざす「国際署名」へのご協力を呼びかけ、署名活動をおこなっています。どうか皆さんの「平和を願う声」「核兵器のない世界を願う声」を署名に託していただき、ご協力いただけますよう、お願いします。



以上